

梅窓院通信

No. 129
2024/03/01

青山



桜が今年も色づきます。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成



暮からお正月は穏やかで暖かい日が続きましたが、元旦の夕方に令和六年能登半島地震が起き、翌日には支援物資を届ける海保機と旅客機の衝突事故と続き、いつにないお正月になってしまいました。

檀信徒の皆様の中には被災地とご縁のある方もいらっしゃるかと存じます。また、ご家族や親戚、ご友人知人が被災された方もいるでしょう。誌面からですが、お見舞い申し上げます。

さて、元旦に新年初の法要、修正会を厳修しましたが、八十一名のご参列を頂きました。昨年に続いての開催でしたが、コロナ前に戻りつつある印象を受けました。まだまだ油断はできませんが、こうして多くの方にお越し頂き、対面しながらの法要はいいものです。なお、導師は副住職に勤めてもらいました。前号でもお伝えしましたが、三年後の古希を目前に住職を継承するつもりですので、これからの梅窓院の大きな法要の導師は副住職が勤めます。ご承知おき下さい。

また、コロナ前の修正会ではお節料理をご用意しておりましたが、これからは温かい飲み物だけの提供とさせていただきます。施餓鬼会と十夜会でもお齋をご用意しておりますが、これもお赤飯をお渡しさせて頂くこととします。どちらも今回のコロナ禍や社会情勢を鑑みての判断です。皆様の中にはお節料理や芋煮を楽しむにされている方も少なくないかと存じますが、どうぞご理解下さい。

さて、仏教講座に林田康順先生が戻ってこられます。当初こちらにお越し頂いていた時とは違い、大正大学や浄土宗内でのお立場も増え、お忙しい中での復帰となります。ということで今期は二回の講義となりますので、こちらもご理解を承下下さい。

寒さ過ぎての春彼岸

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

気

温の変化ということが一日一日の生活の仕方に大きなウエイトを占めている——、この頃の私の嘘いつわりのない実感である。気象情報をこまめにチェックして衣類のことを考えるだけでなく、その日の行動やとるに足らない立ち居振る舞いにするまで、その日その時の温度が気になるのである。

というのも、年をとってからだの具合も大分覚束なくなり、極端な暑さや寒さはもとよりのこと、ちよっとした汗ばみや寒け、微妙な気温の変化に身住まいを合わせるのがはなはだたいへんなのである。冷暖房器具のよく整っている現代とはいえ、そのエアコンの温度調節や風向きのいちいちが随分と気に障るのである。

再び、というのも、春夏秋冬の四季の移ろいの温和な日本列島における一年の生活の中で、おだやかにしてさわやかな過ごしやすい時節時候を身と心にゆったりとゆとりを持って受けとめることが、なかなかできにくい私となってしまうような感じがするのである。

加えて温暖化をはじめとする地球環境の変化による気候変動の波がひたひたとやってくる。異常気象による気温の上昇、また線状降水帯の発生による急激な降雨降水現象、

あるいはまた突風や竜巻、台風の増加とその勢力の大きさ強さなど、まったく落ち着いていられない昨今の気候である。なんとか乗り切り、乗り越えて行かなければならない。

そうした中で、「寒さの果ての春彼岸」「寒さ過ぎての春彼岸」である。長くきびしかった冬の寒さに耐え抜いて、やっと訪れた春の暖かさである。春の到来をしっかりと受けとめて、温かい心持ち、心配りをお互いに育み合う春の彼岸の寧日である。もともと日本列島は南北に長く伸び、また東西も広く及んでいるので、気温の高低なども変化があり、まだまだ雪の残る地方もあることである。

さて、ここでは陽春三月、そして春分の日、お彼岸の頃の句を鑑賞して、温順温和な気分を確かめたい。

いきいきと三月生る雲の奥 (龍太) 春分の日をやわらかくひとりかな (みづえ)

飯田龍太は、父蛇笏の跡を継いで「雲母」を主宰した著名な俳人。つねにしっかりとした穏健な立場に身を置いた作句は、父蛇笏にも劣らない精彩を持つている。この句もまた三月の到来をまさに「いきいきと」詠んだ名句である。一方、山田みづえは、国語

学の権威山田孝雄博士の息女で、「鶴」同人、みづから「木語」を主宰創刊した。その句もまた春分の日のおだやかさを静かに詠じたのである。

彼岸の帰路約束の子を肩車 (衛) 春彼岸母に腕かす重みかな (明子)

貞弘衛は父と子と、そして生井明子は母と娘の、それぞれ慈愛に満ちたほほえましい光景を彼岸参りの中で捉えた二句である。家族の心を通わす小さな営みが、春のお彼岸の時候と習俗に合わせてほの温かく伝わって、心がとてもなごむのである。

大きな慈悲の宝珠や夕彼岸(裕彦)

私は今、やがて沈むであろう入り日の大慈大悲の中にいる。

春彼岸——、春暖の落ち着きを素直にありがたく受けとめて、いよいよ来たる陽春の好季を決して無駄に過ぎさないで、少しでも意味のある生き方、暮らし方につなげて行きたい。お彼岸の寺参り、墓参りには、今は亡き先祖の精霊への心からの追善追福、報恩感謝とともに、自分自身へ向けての精進努力、刻苦勉強を強く誓い合いたい。

(大正大学名誉教授)

十二月・一月の行事報告

絵馬回向 十二月二日(土)



年末恒例の絵馬の魂入れ

修正会 一月二日(月)



春彼岸法要

三月二十日(水・祝)

彼岸寄席

春彼岸法要

午後二時〜地下二階祖師堂

午後二時〜地下二階祖師堂

※祖師堂入口はご利用頂けませんので、ご注意ください。
※場所や内容が変更になる場合がございます。



プロフィール

たしかわ こだんし
立川小談志師匠
岐阜県出身。
昭和五十一年九月八日生まれ。
本名 寺田政春

経歴

一九九九年五月 立川談志に入門。
前座名「談吉」。
二〇〇七年七月 二ツ目昇進、
「泉水亭錦魚」を襲名。
二〇一一年十一月 談志死去のため、
二〇一二年四月 龍志門下へ。
二〇一五年十月 真打に昇進、
二代目「立川小談志」を襲名。

塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

- お申込み方法
同封はがきにご記入の上、**3月8日(金)必着**でお申込み下さい。
- お支払い方法
同封の払込取扱票で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。
銀行・コンビニでのお支払いはできません。
また、払込取扱票に記載の口座番号00130-4-93033はお支払い金額ではございませんので、ご注意ください。
- お塔婆のお渡し
春彼岸会法要終了後にお渡し致します。ご欠席の場合は後日、僧侶にて建てさせていただきます。
ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせ下さい。



郡上八幡ふるさと展

3月19日・20日10:00~17:00
(最終日16:00終了) 観音堂
特産品が目白押し郡上八幡ふるさと展が今年も梅窓院にやってきます!
この機会にぜひお求め下さい。

春彼岸とは

暑さ寒さも彼岸まで
春と秋のお彼岸が季節の変わり目を言い表した言葉ですが、まさに春と秋の彼岸はお墓参りにぴったりの季節です。梅窓院でも多くの檀信徒さんがお越しになります。この春彼岸もお待ちしています。

春彼岸会によせて

「極楽浄土へ往生された憧れの僧侶へ、感謝の気持ちを含めて」
とても悲しい話です。

私にとって父や兄のような存在であり、心から憧れ人生の師だと思っていたあるお寺の住職が、去年の六月に五十九歳で西方極楽浄土に往生されました。朝、起こしに行くところで冷たくなっていて、心筋梗塞だったそうです。遷化(逝去)の連絡を受けた時、人前でしたが私は表現できないくらいに泣きました。枕経、お通夜、葬儀、満中陰納骨が過ぎて毎日大粒の涙が出ました。

お墓参りに行き、お墓の前でいろいろなことをお話すると、楽しい思い出がよみがえり泣いてしまいますし、今、こうしてパソコンに向かい文章を考えようとすると、涙が出てきてしまいます。もつとお話したい、もつとたくさんのお話を学ばせて欲しい、もつという思いで、涙の日々が続いています。

命は儚い、と頭では解っています。南無阿彌陀仏のお念仏をお称えすれば、必ず阿彌陀如来様に救っていただけます。苦のない世界、西方極楽浄土に必ず往き生まれる往生できると信じています。浄土宗への決して揺るぎない信仰心を持っている私でも、大切な方との別れは、今でも本当に寂しく悲しいです。ですが、大切な故人様は必ず必ず西方極楽浄土にお生まれし、仏様となり私たちの世界を見守ってくださいと信じております。

私は悲しい別れは、忘れるものでも、乗り越える壁でもないと思っています。往生して仏様となり、これからは今までと変わらず私たちと共に歩んでくださると信じております。

(法務部 若麻績大成) 台掌

〈 お檀家様へお願い 〉

- ・お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- ・3月17日~23日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。
- ・会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整ができる服装でご来寺下さい。

令和6年 春のペット慰霊法要のお知らせ

梅窓院僧侶がご供養を勤めます。ぜひご参列下さい。

正午〜 2階本堂

主催:株式会社ジャパンエキスパートシステム



浄土宗の仏具と衣

第6回

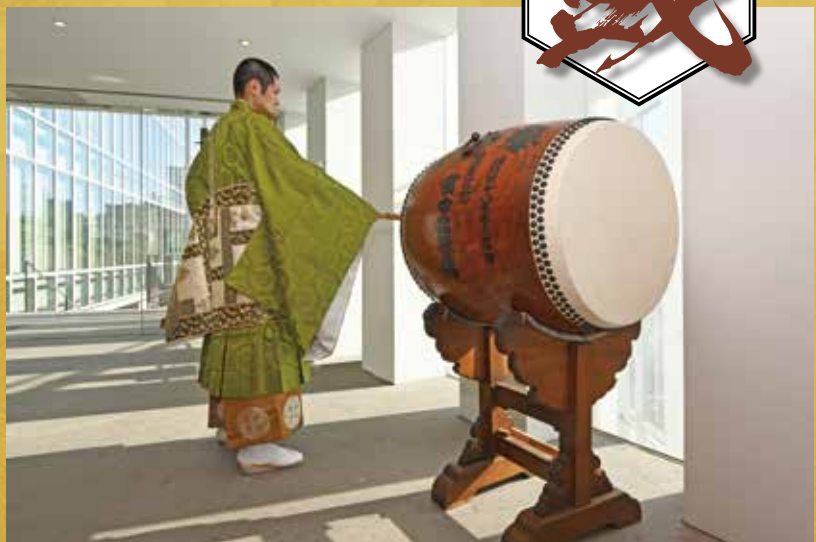
鳴り物

その1

ほうこ



次の偈文(仏などをほめ称える言葉)を声に出して唱えてから三通(さんつう)三下(さんげ)太鼓をゆつくり大きく叩いてから、だんだんはやく小さく叩き、これを三回繰り返し、最後に普通に、小さく、強く叩く)する。これから法要が始まるので、道場に入って下さい、という合図。



浄土宗の法要では鐘や木魚など多くの種類の鳴り物が使われます。実は「音」でいろいろなことを知らせているのです。「音」は暗いところでも、遠くでも聞くことができるとても便利なものだからです。鳴り物の初回は法要の開始を知らせる法鼓と喚鐘をご紹介します。

皆さんは太鼓や鐘というと、何を思い出されるでしょうか。お祭りの太鼓や除夜の鐘でしょうか。どちらも音を出して、リズムをとったり時を知らせるなど、他の人へ何かを知らせる、という役目をしています。

太鼓も鐘もその起源をたど

ると、遠く縄文時代だそうですね。当時は太鼓の音は雷という天からの特別な音に通じ、神を迎える霊力を持つていると考えられていました。いっぽう、身近なところでは仲間同士の集合の合図など、日々の生活に欠かせない音を出す道具でした。さて、こうした鳴り物は神社やお寺でも欠かせない道具として今でも大活躍しています。浄土宗でも音を出す仏具(道具)が色々あり、実はそれらを使い分けて法要を勤めているのです。本堂での各種行事の法要、年忌法要、あるいはお墓の前での読経など、どこでもいろいろな鳴り物を使って音を出しています。

音が大切にされるのは、耳に入る音は視覚よりも間違いなく伝わりやすいからです。遠かったり暗かったりすると見損

【偈文・法鼓文】

常(じょう) 覚(かく) 光(こう) 無(む)
以(い) 諸(しよ) 明(みよ) 量(りよ)
法(ほう) 世(せ) 普(ふ) 佛(ぶつ)
音(おん) 間(けん) 照(しよ) 土(ど)

【意味】常に教えを示す仏の雄々しい声によって世の人々を迷いから目覚めさせる。その光明は、くまなく数限りなく仏の国々を照らす。

じることがありますが、遠くまで伝わる音は聞き逃すことはとても少ないからです。大きな法要で何十人も僧侶が一斉に声を出したり、立居振る舞いをする合図として、音は欠かせないものなのです。

梅窓院でも多くの鳴り物を使っていますが、今回は法要が始まる時に使う二つの鳴り物をご紹介します。

最初は法鼓という太鼓です。本堂正面の階段を上がり、扉を入った左手奥、墓地を見渡せるガラス壁の手前に置かれています。この法鼓は「これから法要が始まりますので、皆さん、本堂に入ってください」という合図となります。

鳴らし方は、原則は三通三下（さんつうさんげ）といって、間を空けた大きな音からだんだん間が詰まった小さい音にしていき、これを三回繰り返します。そして最後に、普通の音、小さい音、大きな音と一回ずつ叩き締めくくります。普段さり気なく皆さんの耳に入っているとしますが、今度の法要でぜひ耳をそば立てて聞

いてみて下さい。この法鼓がなったら本堂に入りますが、本堂に入るときは一礼してから入って頂けると丁寧ですね。

そして同じ三通三下で叩くのが喚鐘です。これは本堂前の階段を上がつてすぐの左手の木製の枠に吊り下げられています。こちらは法要が始まる前に鳴らしますので、すでに皆さんは本堂に座られて、心落ち着かせている時で「いよいよ法要が始まります。準備はよろしいですか」という知らせになります。そして、叩く前に唱える偈文は、お堂に仏さまや菩薩さまがお入りになると同時に、地獄道や餓鬼道、畜生道から逃れられることを祈念するもので、慈悲の心を大切にする仏教ならではの偈文と言えるでしょう。

この二つの鳴り物の後に法要が始まります。心静かに導師と式衆の入堂をお待ち下さい。



かんしやう



次の偈文を声に出して唱えてから三通三下をする。これから法要が始まりますよ、という合図で、道場に仏や菩薩がお集まり頂くことを願ひ、同時に悪趣（地獄・餓鬼・畜生）に堕ちた者たちがその苦しみから逃れられることを願う。



【偈文・鳴鐘偈】

願 同 願 願
 諸 入 諸 諸
 賢 道 悪 離
 聖 場 趣 苦

【意味】願わくば、もろもろの菩薩や仏がこの道場に入りたまえ。また願わくば地獄・餓鬼・畜生の三悪道に落ちた者が苦から離れますように。

日本のエンターテインメントを支えてきた実業家セガサミーホールディングス株式会社代表取締役会長の
はひと目で梅窓院の墓地が気に入り、檀家になられたそうです。その経緯などを伺いました。

◆本日はお忙しい中、お時間を頂きありがとうございます。早速ですが、ご自身のルーツや梅窓院の檀家になられたきっかけをお教え下さい。

の先祖は群馬県の里見村です。清和源氏の流れを汲み、『南総里見八犬伝』の房総里見氏と同じ一族です。菩提寺は妙義山にある曹洞宗の古刹、陽雲寺です。

父はサラリーマン勤務、母は薬剤師として勤めていましたが、父が一念発起して東京の板橋で商売を始めました。それを機に板橋のお寺にお世話になったのですが、住職が変わったことやお墓が少し狭かったこともあり、物足りなくなった母から、どこか違うお寺を探すよう言われました。

◆お寺探しですか。差し支えなければどんなお寺を回られたかお教え下さい。

護国寺や祐天寺、妙定院寺です。

◆どこも大きなお寺ですね。そうした中、梅窓院に決められた理由は为什么呢。

梅窓院の隣のビルで仕事の打ち合わせしていた時です。気分転換に窓から外を見たら、梅窓院の墓地が目に入りました。綺麗に区割りされ、掃除が行き届いているのが上からでもわかりました。ひと目で気に入り、戻って調べると由緒あるお寺とのこと。お世辞抜きで運命の出会い、とご縁を結びました。翌年の父の十七回忌も梅窓院で勤めさせて頂き、母も喜んでいました。

◆それはありがたいご縁です。この話を聞いたら、当院の墓苑整備に関わる者は大喜びです。

さて、会社の話を伺いたいのですが、セガというゲームを、サミーというパチンコが思い浮かぶのですが。

その通りです。ですが、サミーはもともとゲームの会社で、「ソナーアタック」という潜水艦ゲームなどアミューズメント機器を開発して販売していました。

◆艦船に魚雷を当てるゲームですね。覚えています。

それは嬉しい。パチンコ・パチスロ業界に入ったのは、パチンコの開発にゲームの要素を取り入れるために手を貸してほしいという依頼があったことがきっかけです。

◆そして、今はセガサミーホールディングスですね。

そうです。苦難の連続でしたが、「パチスロ北斗の拳」が大ヒットし、ご縁があったセガと経営統合する形になりました。

◆そうなのですか。成功の秘訣は何だったのでしょうか。

振り返れば波乱万丈でしたが、人との出会いやご縁を大切にしてきました。世界中にこんなに人がいるのに、同じ時代に生きて、出会えることは奇跡的であり、やはりご縁があるから出会うのだと思います。

物事はマクロとミクロの視点で捉えること、つまりマクロは広く大きく、かつ長い視点で見ることですが、ミクロはしっかりと現状を見つめる視点。これを調和



大崎にある本社の会長室で取材後に撮った記念写真。以前は 会長のご実家に中島住職が棚経で回っていた。

させることで人との関わり方は良好になると思います。ここはお寺にも通じることでしょうか。

◆そうですね、梅窓院も江戸時代からの繋がりが、これからも受け継がれていくと思います。

確かに。さっきのマクロで言うと、私たちの命は先祖からの贈り物ですからね。

◆はい。その流れでの来世はどう思われていますか。

来た道があれば行く道があるということですね。うーん残念ながら、考える時間がなかったですね(笑)。

◆また次の機会にでもお聞かせ頂きたいです。



会長室の執務机にて。
(写真提供:セガサミーホールディングス株式会社)



セガサミーが入っている大崎駅からすぐの住友不動産大崎ガーデンタワー

プロフィール

代表取締役会長
1942年1月16日生まれ。セガサミーホールディングス株式会社 代表取締役会長。
1975年、サミー工業株式会社(現・サミー株式会社)設立。2004年、株式会社セガ代表取締役会長。
同年、パチンコ・パチスロメーカーのサミーとゲームソフトメーカーのセガの経営統合により、セガサミーホールディングス株式会社を設立。代表取締役会長兼社長に就任。2021年より現任。1990年には馬主資格を取得。代表馬はサトノダイヤモンド・サトノクラウンなど。



てんぷら石原

今回は梅窓院から徒歩5分、路地裏に佇む一軒家
のてんぷら屋、創業昭和44年の「てんぷら石原」を
ご紹介します。

青山通りから一本中に入ると都会の喧騒から離れ、和の趣を
感じるアットホームな店内。天ぷらを揚げる心地よい音が響き
渡ります。

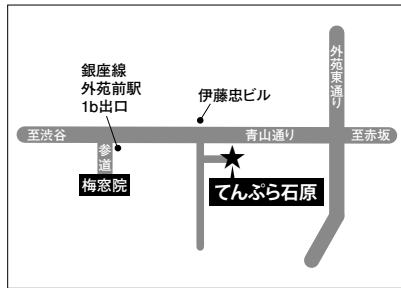
店主の石原伸幸さんは先代の父上が他界され、急遽天ぷら
を揚げるようになったそうです。突然のお別れだったこともあり、
先代の江戸前天ぷらの味と技を、伸幸さんの新たな工夫やア
イディアで超えようと日々努力を重ね続け、魚介類が入っていな
い野菜だけを入れた野菜天井の先駆者となりました。

お客様に一番美味しい揚げたてを召し上がって頂きたい思い
を胸に、創業以来注ぎ足した秘伝のタレと、旬な食材をふんだん

に使用した揚げたての天
ぷらを提供されています。

地元愛に溢れた優しい
お人柄と笑顔を絶やさない
石原さんこだわりの味を
是非お楽しみ下さい。

なお、天井メニューは
ランチのみのご提供とな
ります。



営業時間/
ランチ (月～金) 11:30～14:30
(日・祝) 11:30～14:00
ディナー (月～金) 18:00～22:30

定休日/土曜日
※最新情報は店舗まで直接お問い合
わせ下さい。

席数/21席
(カウンター2席×2、個室2部屋8名)
住所/東京都港区南青山2-13-17
南青山いしはらビル1階
TEL/ 03-3402-8403



カウンター席では洗練された職人技を
お楽しみ頂けます。



海老野菜天井1,490円。揚げたてサク
サクの天ぷらを是非ご堪能下さい。

春の食卓には「ニラ玉」

食は命

食養研究家
武鈴子

第九十四回

今では一年中市販されている
ニラですが、春が旬の野菜です。
東洋的な野菜で日本では古くから
重要野菜として栽培されていま
す。別名を起陽草ともいい、根元
から切っても切っても、また次々と
新芽が伸びてくるほど勢いの強い
野菜です。なよなよと見えながら、
間もなく新芽が伸びてくる生命力
には驚かされますが、その強靱な
命にはすばらしい力が秘められて
います。

食物の効能効果についての専門書『本草綱目』に、ニラは「肝経
の病を司る。」

心臓に集まって、五臓をおだや
かに調和させる。胸の熱を除い
て、詰まった気を下げる。胃腸を温
めて冷えを除き、消化を助ける。」
また、「古血の停滞(漢方で、瘀血:
おけつ)をなくして、鼻血、吐血、血
尿を解消し、腎機能を強くして、イン
ポテンツ、遺精を改善する」と記
載されています。

春は肝臓に負担がかかるといわ
れます。一年のスタートは肝臓を
元気に「ニラ玉」で。また、婦人病
の大半は瘀血が原因であるとい
われています。ニラはこの予防に
もなる重要な野菜です。さいわい
年中市販されているので日々の
食卓にぜひ取り入れましょう。

ニラをみじん切りして溶き卵に
加えた玉子焼き「ニラ玉」はいろ
どりもきれいでおいしく、お弁当
映えもするので家族全員でいた
だいてはいかがでしょう。

青山俳壇

選者「ウエッパ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○ 雨あとの土の香りぞ落葉掻

◎入選

○ 追われない時間の居場所日向ぼこ

○ 煤払六年ぶりのベッド裏

○ 目を細め茶漬けの酸茎噛みしめる

○ 年の瀬のテレビは何を観ようかと

○ 古希に入る師走の日々の事もなく

○ 色合ひの同じセーター着て二人

○ 手に取りし大根の葉の瑞々し

○ 高圧線の先に連なる冬の山

○ 水枯れて田んぼは深く眠るかに

○ 安曇野のりんご畑が枯れてゐる

○ 下りてきてこの日溜まりの冬桜

◎ 選者 詠

○ ランポイント(アドバイス)

今回の特選は、中山作にするか矢川作にするか少し迷いまし
た。結局、中山作にしたのは、読者に伝えるイメージがはっきり
しているという点からです。矢川作は素直な詠み方で本当にいい
作なのですが、少し理があるということが残念でした。理・知の
入った(機知俳句)というのが一時流行したことがあります。理・知の
現在はやはり句のもたらすイメージの新鮮さとかリアリティーと
かが大事にされていると思われまます。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「春の季語」で自由にお詠み下さい。4月5日を締切、
2024年6月発送の『お盆号』にて発表致します。郵送・FAX・メールの
いずれかの方法で、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合が
ございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係
FAX:03-3404-8436(広報檀信徒部)
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエッパ編集室
電話03-5368-1870

令和6年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より「令和6年度前期仏教講座」を開講します。今年度前期も4名の先生が担当します。どうぞお気軽にご参加下さい。
※詳細は別紙チラシをご覧ください。

行事予定

春彼岸会法要

3月20日(水・祝)
寄席 午後1時～ 祖師堂
法要 午後2時～ 祖師堂

3月19日(火)～20日(水・祝)
郡上八幡ふるさと展 観音堂
※詳細は3面をご覧ください。

はなまつり

4月2日(火)～8日(月)
2階 本堂
お釈迦様の誕生日をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花御堂がございます。皆様どうぞご参拝下さい。

大施餓鬼会法要 (併修) 浄土宗開宗八五〇年慶讃記念法要

5月18日(土)
※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

開山忌法要・能楽奉納

6月8日(土)
※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

第86回 念仏と法話の会

6月27日(木)
講師 静岡県 海福寺住職
瀧沢行彦上人
※詳細は施餓鬼号同封チラシにてお知らせ致します。

発行 梅窓院
発行日 令和6年3月1日
発行人 中島 真成
編集 広報檀信徒部
住所 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8107
ホームページ <https://baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

梅窓院からのお知らせ

「アジア発展途上地区援助第34回(令和5年度)贈呈式」が行われました。
アジア発展途上地区への物心両面の福祉活動を行っている一般社団法人水月会の会長に中島住職が就任し、アジア発展途上地区援助第34回(令和5年度)贈呈式を梅窓院本堂にて行いました。中島住職よりウクライナ大使セルギー・コルスンスキー閣下へ、ウクライナ避難民傷病人への支援金が贈呈されました。



梅窓院のお墓とペット供養の窓口

ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

先日、冬休みに入ったお孫さんと一緒に久しぶりにお参りに見えたお檀家様。ご挨拶しながらお孫さんに「今、小学校では何が流行っているの?」と聞いたら「インフルエンザ!!」と元気に答えてくれました。一同大笑い。おじいちゃんは「今年一番笑った。」皆さんの笑顔で仏様たちも安心されているのでは? 別れ際にお孫さんが「オバちゃんまたね」と手を振ってくれました。手を振り返しながら内心「よかった……おばあちゃんって言われなくて」と胸をなでおろしたのは秘密です。

コロナが落ち着いてきたかな?と思ったらインフルエンザが流行っているようです。まだまだ気を付けて生活しないといけないですね。

ところで梅窓院墓苑のホームページをご覧になっておられますか?新規にお墓を探している方だけではなく皆様と私たちで色々なやり取りができるようにすべく現在準備しているところです。「こんなことできたらいいな……」などのご意見ございましたらぜひお知らせ下さい。
(墓苑事業部 森)

お檀家さんに伺いました

『心の拠り所』

令和5年 秋彼岸会にて

彼岸会に初めて参加しましたが、三遊亭歌る多師匠の寄席はとても面白かったです。ご縁あって梅窓院の檀信徒になってからご僧侶や職員の皆さんには、いつも親切にして頂き、相談事などもわかりやすく教えて頂き、大変感謝しております。また、仏教に対して学びたい意欲もあり、行事等に参加すると心が洗われるので、今後も各イベントには積極的に参加させて頂き、今後の人生に反映できたらいいなと思っています。